

どんぐり 実生

2025年 4月号（通算第266号）編集発行 浦和西高斜面林友の会

〒330-0042 さいたま市浦和区木崎3-1-1

埼玉県立浦和西高内 浦和西高斜面林友の会事務局 電話 048-831-4847

メール件名は「斜面林」と記入してください。

入会の申し込み、問い合わせメール 3220028501@jcom.home.

『実生』投稿受付 ashinagako@gmail.com

ホームページ <http://unshamenrin.wix.com/un-shamenrin>



《3月8日》 活動内容 ①アズマネザサと枯れ枝の収集と運搬
天 気：曇り ②さつまいも畑の土起こし
参加人数：27名

曇り空で真冬のような寒い日です。



URAWANISHI.SHAMENRIN

インスタグラムQRコード

①アズマネザサと枯れ枝の収集と運搬

先月集めておいたアズマネザサや枯れ枝をリヤカーに入れてプール裏置き場まで運びます。アズマネザサはだいぶ乾燥していて軽くなっています。枯れ枝はかなり大きいものがあるためリヤカーに乗せるのも大変です。

単純な作業に思えますが、大切な作業だし楽しい作業です。寒い中でも身体が温まりますね。



枯れ枝を集めては置き場に投げる

②さつまいも畑の土起こし

秋の焼きいも大会に向けて畑の準備を始めます。しばらく放置していた畑の土は大きな塊になっていたりするので、まずは掘り起こしてさつまいもの育ちやすい土に変えます。これも重労働ですが、やっぱり楽しいです。

今日もPTAの方々が作業に参加しました。



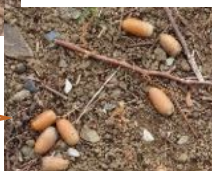
良い土になったね



音楽室裏の実生だった
赤松が大きくなりましたが..
どうも枯れてしまっている
ようです



春です
ふきのとうが
出ました



斜面林の中には
どんぐりがたくさん落ちてます
トトロかな？

生物部の研究発表

西高祭では斜面林のアズマネザサを取り上げた研究発表が張り出されていましたが、今日はスライドを用いて生徒自ら発表してくれました。

斜面林の中でアズマネザサを刈っている所とそのまま放置している所の比較をすると、照度の差で刈っている方が植生の種の多様性が向上していることが証明された。という内容でした。

日頃の活動に意味がある
心強い研究発表でした。

ホッとして
笑顔の部長



内山節講演会がありました

今回のテーマは「つくるって何だろう」です。
「つくる」といえば、料理を作る・家を造る・未来を創るなどの漢字が浮かびます。しかしいきなり「アダム・スミス」が登場し、一体どんな内容になるのだろうと思っていました。
なるほど、経済活動でものを作るとはどんな意味があるのか。自分達の利益だけを考えてものを「つくる」こと。
他者と共同し合い人が必要とするものを「つくる」こと。
同じ利益を得るにしても、前者は他者との関係や自然環境などを破壊していく。後者は人々や自然や地域などと支え合っていく。何気に「つくる」ものが与える影響って大きいです。
さて、私たちがさつまいもを「つくる」時、これはどういう影響を与えているのでしょうか😊。



「おがキンちゃんのひとりごと」

今年も新学期が始まりました。小学生ほどではないにしても、ピカピカの一年生になって、希望と期待に胸膨らましていることかと思います。我が60年前の私も、ピカピカの高校生になって将来を真剣に考える候がありました。当時、私はいわゆる戦後ベビーブームの第二期生。浪人が40万人も出ると言われた世代（高校は昭和39年入学で東京オリンピックの年）でした。我がピカピカの一年生はヨレヨレの3年生に成り果て、「四当五落」（今は死語）に負けて、遠心分離機で遠くに飛ばされてしまいました。現在のヨレヨレ姿は、当時の名残りです。

さて、この前置きは、実は進化論の話の導入でして。生物が進化を重ね、現在に至ったのは、生存に有利な個体が栄え、不利な個体は滅んでいった結果（優勝劣敗）なのか、いやあ、生物は生きる為に必死で、やむ無く姿形を変えた結果なのか、大きな問題を孕んでいます。昔、時に巨大な生物がいました。例えば、キリンの頭より高いカバがいたとか、両翼長が7mものアホウドリがいたとか、頭から尻尾まで30mに及ぶ恐竜がいたとか、枚挙に限りがありません。ですが、一見無敵に見えますが、巨体が栄えたためしはありません。巨体故にひとたび転変地異があると死んでしまうからです。大食いの餌不足、移動の不便、大人になるまでの期間の長さ、子育ての大変さ等々。気候が穏やかで年変動の激しくない時代ならこれで良いのですが、ひとたび天変が起こると融通が効きません。巨大生物は言ってみれば平和の象徴だったのです。

ゾウの鼻はなんで長いのでしょうか。これも必死に生き残る為だったからと言われています。哺乳類は森にいる時は小さく、現在の馬は犬程度の大きさでした。哺乳類は森から出ると体が大きくなる傾向にあります。やはり、天敵との闘いには体が大きい方が生存に有利だからでしょう。ゾウもそうです。その結果、鼻の位置が地面から離れていき、生存に大切な地面からの情報が得られなくなった結果だと言われています。

犬を考えて見て下さい。目はあってもどうも曇りガラスのような状態。だから、犬は地面や草に付いた匂いからあらゆる情報を得ようとします。ゾウも水のありか、草の状態、同胞の有無やライオンの存在を地面を嗅ぐ事で得ています。だから、大きくなる程、地面からの生存に不可欠な情報を得にくくなります。その解決策が鼻を伸ばす事だったのでしょうか。ゾウは決して便利だから鼻を伸ばした訳ではありません。生きるに必死だったからです。ヒトは直立して地面から鼻が遠くなりました。その結果、目が良くなり、鼻が悪くなったという説もある位です。

童謡のゾウさんの歌は、「どうしてお鼻が長いのか」を、母さんが長いからだと説明しています。でも、これって親子は似ているって話で、お鼻が長い説明にはなっていませんね。生物は昔から生きる為に必死でした。そして、今の私達も。（小川 均）

《2025年度の浦和西高斜面林友の会作業は、基本第2土曜日9:30～11:30に行います》

5月10日（土）、6月14日（土）、7月12日（土）集合は地学教室です。